

# 阿久比米れんげちゃん研究会での水稲新品種の導入

～酷暑でも高品質・良食味にこだわる「れんげちゃん」～

杉浦 尚征（知多農林水産事務所農業改良普及課）

【2026年4月掲載】

## 【要約】

「阿久比米れんげちゃん研究会」で玄米品質向上のため、高温耐性を有する水稲新品種「にじのきらめき」及び「ゆうだい21」の試験栽培を実施した。両品種とも慣行品種の「コシヒカリ」より収量、品質は優れており、食味スコアは研究会の目標スコアを超えていた。以上から、両品種を研究会で導入する意向となった。

## 1 はじめに（目的）

「阿久比米れんげちゃん研究会」は、レンゲを基肥とし、本田では化学肥料は使わず、化学合成農薬を慣行より5割以上減らした特別栽培米「れんげちゃん」を栽培している。「れんげちゃん」は食味にもこだわっており、食味スコア（静岡精機株式会社「GS-2000」で計測し、食味官能評価の「総合評価」をスコアとしている。）やタンパク質含量の目標を定め、その達成に向けて栽培方法を工夫している。研究会では水稲品種の「コシヒカリ」が主に栽培されているが、近年の夏季の高温により高温障害が発生し、品質が低下している。会員は高温下でも品質の高い米を生産するため、高温耐性を有する新品種の導入を求めている。

そこで、新品種の導入に向けて、「コシヒカリ」と同熟期の高温耐性品種の「にじのきらめき」及び「ゆうだい21」の試験栽培を実施した。

## 2 展示概要、調査項目

### (1) 展示概要

「にじのきらめき」及び「ゆうだい21」と慣行品種の「コシヒカリ」を比較した。各ほ場では水稲の作付け前にレンゲを緑肥として栽培し、すき込んだ。栽培概要は表1のとおりだった。「コシヒカリ」は倒伏しやすいため、慣行栽培と同様に基肥は施肥せず、穂肥を施肥した。

表1 栽培概要

品種	移植日	基肥		穂肥	
		肥料名	施肥量(kg/10a)	肥料名	施肥量(kg/10a)
にじのきらめき	5月10日	有機アグレット674	20	有機アグレット727	30
ゆうだい21	5月15日	有機アグレット674	20	有機アグレット727	20
コシヒカリ	5月5日	なし	0	有機アグレット727	20

### (2) 調査項目

#### ア 生育調査

最高分げつ期（草丈、茎数、葉色）、出穂期、成熟期（稈長、穂長、穂数）、成熟期、倒伏程度

## イ 収量、品質、食味調査

精玄米重、くず米重、千粒重、整粒歩合、白未熟粒、タンパク質含量、食味スコア

### 3 結果

#### (1) 気象条件

各品種の出穂後 20 日間の平均気温は約 30℃（大府アメダスデータ）であり、高温登熟障害が発生しやすい気候であった。

#### (2) 生育調査及び成熟期調査結果

生育調査及び成熟期調査の結果は表 2 のとおりであった。

草丈及び稈長は「ゆうだい 2 1」が最も長く、成熟期にはほ場の一部で倒伏していた。穂数は「ゆうだい 2 1」、「にじのきらめき」、「コシヒカリ」の順で多かった。

表 2 生育調査及び成熟期調査結果

品種	生育調査日	生育調査			出穂期	成熟期	成熟期調査			
		草丈 cm	茎数 本/m <sup>2</sup>	葉色 SPAD値			稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	倒伏程度 0~5
にじのきらめき	6月25日	54	393	39.5	7月27日	8月27日	72	20	338	0.0
ゆうだい 2 1	7月3日	92	523	36.1	8月1日	8月29日	108	23	360	0.5
コシヒカリ	6月25日	62	411	35.1	7月22日	8月18日	83	20	278	0.0

#### (3) 収量、品質及び食味調査結果

収量、品質及び食味調査の結果は表 3 の通りであった。

収量及び品質は「ゆうだい 2 1」、「にじのきらめき」、「コシヒカリ」の順で優れていた。食味は「コシヒカリ」、「にじのきらめき」、「ゆうだい 2 1」の順で優れていた。

表 3 収量、品質及び食味調査結果

品種	収量調査結果			玄米品質			食味
	精玄米重 kg/10a	くず米重 kg/10a	千粒重 g/千粒	整粒歩合 %	白未熟粒 %	タンパク質含量 DRY%	スコア
にじのきらめき	528	3	24.1	28.3	32.6	6.6	89.0
ゆうだい 2 1	567	10	21.2	54.3	22.5	7.0	83.5
コシヒカリ	369	13	20.8	7.3	75.5	6.0	90.0

### 4 まとめ（考察）

「にじのきらめき」は、「コシヒカリ」と比較して収量、品質が向上し、食味スコアも同程度であった。「にじのきらめき」は耐倒伏性が高いため、今回の試験では「コシヒカリ」より増肥したが、倒伏はみられなかった。そのため、地力の高いほ場での栽培や増肥によりさらに収量、品質の向上が期待された。

「ゆうだい 2 1」は、収量、品質が最も優れていたが、食味スコアは最も低かった。ただし、研究会で目標としている食味スコア 80 は達成できていた。また、稈長が長く、倒伏が懸

念されたため、レンゲの生育や施肥量の検討が必要と考えられた。

以上から、両品種とも高温条件において「コシヒカリ」より収量、品質が優れることが確認できた。研究会では、2026年産において両品種を導入する意向となった。

Copyright (C) 2026, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.